

テーマ：女性管理職のリーダー育成

積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所担当 河崎 由美子

Question 01 女性研究者のリーダー像とは？

積水ハウス株式会社ではあらゆる分野で女性が活躍できるよう、具体的な方針・推進体制を構築しています。女性管理職の育成にも積極的に取り組み、女性研究者のリーダーも着実に増加しています。男女にかかわらず、リーダーとして大事なマネジメントスキルは幾つもあると思いますが、とりわけ私が注力していることは、チームを統率して方向性を示すこと、メンバーを盛り上げながら目標達成に向けて推進すること、そして、自律的にキャリアデザインを描くことです。さらに、女性は男性よりも相手への共感性が高い特性があり、部下や同僚のモチベーションとなる事柄を理解し、適切な気遣いや声かけで、心理的安全性の高いチームづくりにも貢献しやすいといったアドバンテージもあると思います。

女性のリーダー像として、私が最も感銘を受けた方は、元国際通貨基金(IMF)専務理事で、現在は欧州中央銀行総裁を務められているクリスティーヌ・ラガルド氏です。来日されたときに、小さな面談会の場に参加する機会があり、力強く励ましていただいたことがありました。華やかで立ち居振る舞いがカッコよく、スポーツウーマンでもあり、母でもある方でした。一歩でも近づきたいと思っています。

Question 02 女性研究者のリーダー育成のためのご活躍は？

2017年4月より、大阪公立大学と女性研究者のリーダー育成を目指し「産学官連携ウィメンズユニット(WUSO)」の共同研究プロジェクトを実施しています。研究自体は楽しいものですが、大学と企業、同じ研究職でも働く環境の違う中で研究を推進、マネジメントすることには多くの学びがあり、リーダー育成に必要なタフアサインメントになっていると感じています。まだまだ女性のリーダーが少ない中、女性のリーダー育成や登用の鍵をにぎるのは、本人だけではなく周囲や上司も含んだ全体的な研修制度だと思います。当社では、マネジメント層の研修に、「ダイバーシティ・マネジメント」の講座を繰り返し導入しています。固定的な性別役割の見直しや自律的キャリアアップを前提とした仕事の任せ方、育児中の従業員をサポートする体制の定着を図るなど、上司の意識改革を行い、成果が出ています。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



HP : <https://diversity-oows.jp>



Question 03 女性研究者へのメッセージをお願いします。

女性には、育児や介護との両立といった試練が待ち受けていることもあるでしょう。それも学び、タフアサインメントの一つとらえ、ご自身のキャリアデザインに組み込み、その先の可能性を拡げていただけたらと思います。みなさまのさらなるご活躍を心より楽しみにしております。



連携機関

代表機関
公立大学法人大阪 大阪公立大学
共同実施機関
国立大学法人 大阪教育大学
国立大学法人 和歌山大学
積水ハウス株式会社

※大学統合により大阪市立大学は大阪公立大学に名称変更いたしました。

ニュースレターに関するお問い合わせ

大阪公立大学女性研究者支援室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
Tel: 06-6605-3661
HP: <https://www.omu.ac.jp/r-support/>

発行：2023年3月末

News Letter

VOL. 12

大阪公立大学

大阪教育大学

和歌山大学

積水ハウス株式会社

2022年度 ダイバーシティ研究環境実現 総括シンポジウム ボーダーを越えて、女性研究者の未来を拓くPARTIII

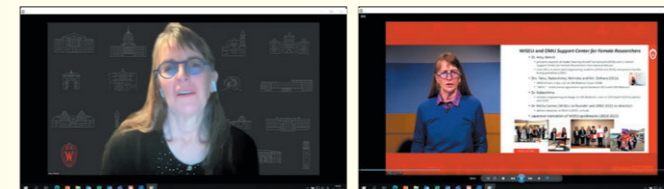
2022年度 ダイバーシティ研究環境実現 総括シンポジウム
2023年3月7日(火) 13:00~15:30
オンライン開催 参加:181名

テーマ 南近畿から世界へ： ボーダーを越えて、女性研究者の未来を拓くPARTIII

大阪公立大学・大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社は、2017年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に選定され、最終年度である6年目を迎えました。2020年度には「南近畿女性研究者支援ネットワーク」が本格始動し、2021年度には大阪商工会議所が参画し、ネットワークを広げました。本シンポジウムは最終年度の集大成として、事業の成果を報告するとともに、ウイスコンシン大学マディソン校 准副学長をお招きし、国内・国外のゲストによる先進的事例の報告から示唆を得て、さらに取組を進展させることを目的として開催しました。初めに、大阪公立大学 辰巳砂昌弘学長より開会の挨拶がありました。引き続き、文部科学省 科学技術・学術政策局人事政策課 人材政策推進室 岡貴子氏、本補助事業の外部評価委員である伊藤真里氏(医薬基盤・健康・栄養研究所 上席研究員)、本奈美氏(大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当課長)よりお言葉をいただきました。



第1部 第1部は基調講演として、本補助事業の国際アドバイザーであるウイスコンシン大学マディソン校 准副学長のAmy Wendt氏をお招きして、「ウイスコンシン大学マディソン校における教員のダイバーシティとインクルージョン:WISELIの取組」と題して、基調講演をいただきました。Wendt氏による本補助事業の取組への評価や、WISELIで長年行っている「採用ワークショップ」の取組とその効果、国内外への波及について述べました。また、同じくWISELI独自の取組である「バイアスの習慣を断ち切るワークショップ」についても説明がありました。WomenからInclusionへとさらにダイバーシティ環境を整えるべく、より包括的な取組を始めているWISELIの取組を通じて、海外の先進的事例を共有しました。次いで、金澤真理氏(大阪公立大学 副学長(ダイバーシティ担当)より、ネットワーク活動が従前必ずしも盛んでなかった南近畿地域で連携型共同研究を実施し、研究環境を整備するとともに研究力向上をはかるといふ本補助事業の特色について報告がありました。実際、この6年間の間に、連携機関、及び他の機関も加わった「南近畿女性研究者支援ネットワーク」を軸に女性研究者の国際的リーダー育成に繋がるような共同研究の基盤を根づかせたこと、連携機関と共同し性別を問わず利用可能な介護相談窓口等を新設して産学連携の強みを生かした研究環境を整備したことが報告され、連携型共同研究助成事業が女性研究者の業績向上を促進する一定の成果に繋がったことが明らかにされました。

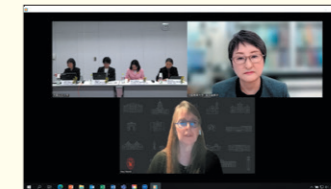


本補助事業の国際アドバイザーであるウイスコンシン大学マディソン校准副学長のAmy Wendt氏

第2部 第2部では、研究報告「グローバルな連携推進」として、「産学官連携研究の現状と展望」と題し、河崎由美子氏(積水ハウス株式会社 執行役員 住生活研究所担当)より、共同研究報告として、大阪公立大学、積水ハウス株式会社の産学官連携ウィメンズユニット(WUSO)での研究成果を紹介しました。産学官連携研究の展望として4つのポイントを挙げ、新しい知見創出、人材育成、新しい提案、情報発信が重要だと述べました。次に、「大学におけるジェンダー公正の取組～海外の先進事例から～」と題し、西岡英子氏(大阪公立大学 女性研究者支援センター プログラムディレクター・特任准教授)より、多様な人材確保のための人事選考ワークショップの事例や、公正な人事選考を行うためのガイドブックの紹介など、人事プロセスにおけるバイアスを最小限にし、組織文化と考え方の変化を促すことの重要性について報告がありました。



第3部 第3部のパネルディスカッションでは、「大学・企業の特徴を生かしたDEI戦略とは？」というテーマで、第1部で講演されたAmy Wendt氏、永井由美子氏(大阪教育大学 学長補佐(ダイバーシティ推進担当)、金川めぐみ氏(和歌山大学 学長補佐、男女共同参画推進室長)、河崎由美子氏、真嶋由紀恵氏(大阪公立大学 特命副学長、女性研究者支援室長)をパネリストに迎え、金澤真理氏司会のもと、意見交換を行いました。まず初めに各機関の補助事業期間中の成果と今後の取組について各連携機関がそれぞれ発表しました。永井氏より、補助事業期間中に女性学長が就任したこと、文部科学省より教員養成フラッグシップ大学に指定され、ダイバーシティ教育をベースに、授業のシラバスにダイバーシティの観点に配慮した授業づくりを目指す旨を明記することなどを紹介しました。金川氏より、来年度より4学部のうち2学部において学部長に女性が就任する予定であり、またダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進本部(DEI)を設置し、男女共同参画、ソーシャルインクルージョン、健康支援、障害学生支援の総合的なダイバーシティの推進体制を整え、さらに進歩を上げていく予定であると述べました。質疑では、視聴者の方からも多くの質問が寄せられましたが、その一つ「女性の活躍推進を図るためになにか一番効果的であったか」に対し、Wendt氏が「ひとつの目標を達成しようとする、それを達成するために、様々な側面において解消しなければならない問題があることがみえてくる。そのひとつひとつを解決しようとするのりは長い、連携機関同士、お互いに問題点について観察し、解決策について好事例を紹介しあい、未来に向かってここまで培ってきた連携を引き続き生かしていくことが重要であり、補助事業を終えたあとも変わらない活動を続けることが望ましい」と総括され、多様な取組を共同して息長く続けることの大切さを確認する大変良い機会となりました。



パネルディスカッション

01

研究力向上のための 英語スキルアップセミナー

2022年10月21日(金) オンライン開催

女性研究者の研究力向上を目指し、英語スキルアップセミナーを開催しました。本年度もZoomにて開催し、合計100名以上の方が受講しました。講師には東京大学 大学総合教育研究センター 特任講師 片山晶子氏を迎え、「母語でない英語」で学術論文を書くことをテーマに、苦手意識が先行しがちな英語での論文執筆作業のハードルを低く捉える考え方、科学論文を書くときに必要となるスキル等についてレクチャーを受けました。昨今注目されている、翻訳機能との付き合い方にも触れました。講義の中では練習問題もあり、参加者に回答を求める場面も多く、オンラインセミナーながら、参加型の講義となりました。事後アンケートでは、大変充実したものであったとのコメントが目立ちました。
※南近畿女性研究者支援ネットワーク共催



02

介護支援セミナー開催

2022年11月9日(水) オンライン開催

「いつか始まる介護について今、必要なこと!」と題し、介護支援セミナーを開催しました。大阪公立大学女性研究者支援室介護アドバイザーである、湯浅美佐子氏を講師に迎え、どなたでも気軽に参加いただける、ランチタイムの時間帯に行いました。将来誰にでも起こりえる介護への備えについて簡潔でわかりやすく、介護保険制度の基礎知識や、実際に介護相談窓口にあった相談事例などを共有しました。大阪公立大学 女性研究者支援室ホームページからダウンロードできる「介護への備えワークシート」の活用の仕方も学びました。今後とも定期的な開催をしてほしい、今から備えておけることを前もって準備または検討しておくことの重要性に気づけた等、参加者から好意的な評価をいただきました。



【介護相談窓口】

相談日:月2回10:00~16:00 毎月の相談日は下記ホームページをご参照ください。
場所:大阪公立大学 杉本キャンパス 1号館1F 女性研究者支援センター(杉本)
HP: https://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/effort/torikumil/assistance-service/kaigo_main/
利用対象:連携機関所属の研究者、大学院生等
メール: gr-knky-f-soudan@omu.ac.jp
電話: 06-6605-3455
※相談には予約が必要です。まずは、お電話またはメールにてお問合せ・ご予約ください。

- 解説動画3本(各15分程度)
基本編 https://youtu.be/QoaNZkYHCo8
認知症編 https://youtu.be/QNX4pypDFEg
応用編 https://youtu.be/KhG3-fJdk_1

解説動画3本(各15分程度)



03

女子学生向けオンライントークイベント サクヤヒメと語るきらりカフェ「働くって、どんな風に?」

2022年11月16日(水) オンライン開催

大阪商工会議所、大阪サクヤヒメSDGs研究会、大阪公立大学は「働くって、どんな風に?」と題し、女性がイキイキ働くためのヒントをさぐる2部制のオンライン参加型トークイベントを開催しました。第1部では、企業、大学、それぞれ違ったキャリアを形成している3名のゲストスピーカーの方が、自身のこれまでのキャリア、働き方や体験談について語りました。第2部では、様々な場で活躍する社会人の先輩たちと女子学生たちがグループトークを行い、進路決定やその他の悩み等、直接質問をしました。女子学生の質問に対して、企業リーダー・大学教職員が多様な経験を基に回答することで、学生・大学教職員双方に気づきの多いイベントとなりました。
※南近畿女性研究者支援ネットワーク共催



04

研究力向上のための プレゼンテーション力向上セミナー

2022年11月21日(月) オンライン開催

研究力向上のためのスキルアップ支援プログラムとして、講師にプレゼン資料コンサルタントの市川真樹氏を迎え、プレゼンテーション力向上セミナーを行いました。ただ伝えたいことを見せるのではなく、相手を分析し、相手の共感を得る論理的な資料の作り方を教わりました。プレゼン内容に合った素材の選択など、すぐに実践できる即効性のあるテクニックを学ぶ素晴らしい機会になりました。



05

女性研究者研究発表交流会

2022年12月2日(金) オンライン開催

積水ハウス株式会社主催、女性研究者が集い、学び、情報交換する「第6回 女性研究者 研究発表交流会」を開催しました。第1部では「女性研究者のキャリアデザインについて~自分らしさを発揮しながら、キャリアとライフを充実させる働き方~」と題し、同志社大学 学長 植木朝子氏、積水ハウス株式会社 執行役員住生活研究所長 河崎由美子氏が対談を行いました。第2部では、産官学連携ウィメンズユニット(WUSO) 研究発表として、大阪公立大学 経済学研究科 教授 杉田菜穂氏、積水ハウス株式会社 住生活研究所 山崎美波氏による「住まいにおける子どものオンライン学習に関する研究」を発表しました。第3部のパネルディスカッションでは、モデレーターとして杉田菜穂氏、パネリストとして田中真秀氏(大阪教育大学 高度教職開発系 准教授)、林聡子氏(和歌山大学 システム工学部 准教授)、室崎千重氏(奈良女子大学 生活環境学部住環境学科 准教授) 服部正子氏(積水ハウス株式会社 住生活研究所スペシャリスト) を迎え、「産官学連携の経験を活かした研究者のキャリアアップ」をテーマに活発な意見交換が行われました。
※南近畿女性研究者支援ネットワーク共催



06

マネジメントセミナー

2022年12月16日(金) オンライン開催

研究力向上のためのスキルアップ支援プログラムとして、講師にコミュニケーションの専門家である株式会社マーブルイノベーションの松尾久美子氏を迎え、マネジメントセミナーを行いました。松尾氏独自のメソッドである、人の価値観を色に置き換え、それぞれの色の特徴に合わせたコミュニケーション「色タイプ別コミュニケーション」について講演しました。自分やほかの参加者の方が何色なのかを知り、受講者は終始楽しく色別のコミュニケーションについて学びました。



07

役員向け アンコンシャス・バイアス研修

2022年10月26日(水) オンライン開催 大阪公立大学
2023年 3月23日(木) オンライン開催 和歌山大学

研究機関や組織において、多様性を尊重し、アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)を克服することで、多様な人材としての個々の能力を最大限に発揮できるような職場環境づくりが求められています。「無意識のバイアスと大学の未来」をテーマに、意識改革を阻む偏見に気づき、ダイバーシティに配慮し、ジェンダー平等を実現する取組を役員から率先して進めていただくことを目的として研修を開催しました。講師には大坪久子氏を迎え、「Fix the WomenからFix the Systemへ無意識のバイアスと大学の未来」と題する、米国科学財団における女性研究者支援事業の流れ、無意識のバイアスの発見、無意識のバイアスの事例・状況、多様な人材を確保するための人事選考のあり方・好事例、日本の新しい流れを創るトップのリーダーシップについての教示に富んだ講演を聴き、認識を新たにしました。

